

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「家庭的な雰囲気の中で、その人らしくありのままに、安心して生活できる第2の我が家」と掲げ、また「元気」と「笑顔」をモットーに棟分けしている。	毎朝、申し送り時、理念を唱和している。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員周知し、業務内容も食事時間は決められているが、余暇時間などの過ごし方などは、入居者と共に決めながら生活を作っている。	今まで慣れ親しんで来た生活など、家族からの情報も得ながら、余暇活動を提供しています。また、入居者の希望に添った生活をできる限り提供しています。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時に書面にて説明しています。施設内には玄関やホールに掲示しています。	○ 入居者や村民へ、広報誌を配布ししんごうグループとしての役割や理解を得られるようにしています。地域の方々には施設というイメージが強いと感じられますが、今後は理念の理解がられボランティアや地域の方々との交流が深められれば良いと思います。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	建物をフェンスで囲んでいることもあり、近隣の人たちが立ち寄りにくい雰囲気を与えているのかもしれないが、家族以外は殆ど来られません。地域推進会議等で情報を得て地域の行事へ参加させて頂いています。ボランティアの受け入れ体制は整っていますが、なかなか来られません。施設実習等での実習生は年1回程度受け入れていています。	○ 立ち寄りやすくするためにも、施設見学やイベント等を計画し理解を得て頂けるようにしていきたいです。地域行事に参加し、交流を深め入居者・職員共に顔なじみになっていきたいです。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価に取り組み、外部評価の意義を理解している。評価結果に対しても、全職員で検討を行い改善に向け取り組んでいる。	職員会議時に、外部評価結果について話し合う機会を設けている。また、いつでも見られるようにしている。
6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、メンバーは殆どの方が出席している。情報交換ができる場となり、会を重ねるにつれて、家族同士での介護の苦労話など聞かれるようになっていきます。外部評価について報告し、意見や助言を頂いています。	○ 会議の充実を図っていききたい。また、どのようなことをしているのか、した方が良いのか知りたい。
7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	村全戸に広報紙を配布している。また医療機関、役場、商店などにも何部か置いて頂いています。また、村の厚生課の担当者とは情報交換し、必要に応じて協力を得ています。	
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全職員が理解しているとは言えない状況にあります	○ 地域権利擁護事業や成年後見制度の概要を理解し、必要な人に活用できるように研修参加していきたいと思えます。
9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定例勉強会や外部研修などに参加し虐待について理解し、全職員が虐待防止に努めています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書や運営規定等について説明し、理解を得た上で書面で同意を得ています。退去時にも説明し、同意を得ています。	質問や疑問等に関しては、随時受け付け、解決できるようにしています。
11	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員に対し何でも話してくれる入居者と、訴えない入居者もいますが、言動だけではなく、表情や態度なども十分に観察し、くみ取る努力をして信頼関係を更に築けるようにしています。	○ 改善できる点は改善していきます。また、外部へも話せるような環境を整えて行きたいと考えています。
12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	体調不良時には、その都度連絡報告しています。日頃の生活に関しては定期的に報告しています。入居者の預かり金に関しては、出納帳に記載し領収書を保管し家族に渡しています。	○ 職員の異動に関しては、広報誌に掲載し、且つ、面会時に伝えていたが、その都度連絡できるように配慮します。
13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口や苦情処理体制は整えてあり、重要事項説明書にも記載してあります。現在までに、苦情は聞かれていない。	○ 家族との交流を深め、何でも言える関係ができるようイベントを考えていきたいと考えています。
14	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議の後に会議録を見ている。また、月1回の職員会議にて意見や提案でいる場を設けている。	会議の場の意見で解決できることは、その場にて行い、皆で考えられるようにしています。
15	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現在病欠1名あり、各棟6名であり、日中2名・夜間1名での勤務体制になっています。必要に応じて残業など行っている状況にあり、柔軟な対応にはやや困難な状態となっています。	○ 入居者との関わりをもっと多く持てるようにし、信頼関係を築いていけるようにします。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動に関しては、諸事情により避けられないと思われます。入居者への配慮として、お別れ会、歓迎会を行い理解をいただいています。ただ、介護の技術や能力面に差があり、入居者への関わり方に差が出て、混乱を起こしている入居者がいるのも事実です。	○	入居者への影響を最小限にするためにも、情報交換や引き継ぎを十分にしなければならないと思います。
5. 人材の育成と支援				
17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力別に研修に参加し復命書を提出している。また、伝達講習も行い、他の職員にも情報の共有を図っている。研修参加にあたり各自目標を持って望んでいます。	○	定期的に研修に参加できるよう計画を立てていきたいと思っています。
18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員全員が交流はできていないが、会議や研修・合同運動会などで、同業者との交流が図られ、情報交換等が行えています。	○	定期的に交換研修を行い、同業者との交流を図り、ネットワーク作りができればいいと思います。
19	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための良好な工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的に面談を行って相談は受けている。全職員がストレスを抱えていると思います。	○	ストレス・悩みを普段から言い合える環境を作っていかなければならないと思います。
20	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務時間に業務を終了するのは、難しい状況ではありますが、感謝の言葉や褒めることを心掛け、意欲の向上に努めています。	○	自然な感じ表現できるように努力します。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
21	○初期に築く本人、家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人、家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	居宅のケアマネジャーから情報や面談記録などを参考にして、家族や入居者から相談しやすい環境づくりをしています。	
22	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容にて、当施設で対応できないような場合は、他機関に繋げていけるよう支援しています。	
23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時の面談や本人・家族からの要望を聞いています。また、生活歴や習慣等を聞きケアに取り入れ、徐々に馴染めるような工夫をしています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は介護のみだけでなく、家族の一員として、共に喜怒哀楽を共感できるように努めています。また、入居者にあつた役割を持って頂き、感謝の言葉をかけたり、お互いに支えあい生活がおくれるようにしています。	入居者にあつた軽作業をしていただいています。食器洗い、食器拭き、タオル干し、タオル伸ばし、タオルたたみ等。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの情報を元に本人のバックブランドを見ながら出来ること、出来ないことを見極めたり、気づきを増やししながら、入居者らしい生活を送れるように家族と共に支えていけるようにしています。		センター方式を取り入れ、入居時に家族へ協力を得て慣れ親しんだ生活等を聞いています。
26	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	定期的に家族に便りや状態報告をし、また施設行事へのお誘いの連絡をし、家族との交流が図れる場を設けています。	○	遠方の家族に対して職員間でのフォローをしていますが、入居者はどのように感じているのかは疑問に感じます。
27	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	入居者の希望に応じ、対応しています。また、自宅付近へのドライブを行い、馴染みの場所にいけるようにしています。		ドライブは時々しか出かけられないのですが、病院受診後に会話を持ちながら自宅付近を通り、馴染みの場所を通るようにしています。
28	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の人間関係を把握し、入居者同士の間を取り持ち、関わりを持ちながら支え合って生活を送れるようにしています。		耳の遠い方など理解しやすいように伝えたり、声がけ多く持ちながら、人間関係を良好に保てるようにしています。
29	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居時など、家族に対して何かあったときは、いつでも相談してくれるよう、話しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者の生活歴や家族からの情報をもとに、本人の思いや希望を把握し、また表現できない入居者に対しては、本人の視点に立って把握するように努めています。	○ 入居者の本当の思い等を理解できるよう、今以上に信頼関係を築きながら気づきを増やして、職員間の情報共有をしていきたいです。
31	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時に入居者の生活や馴染みの暮らしを聞き、今までの経過を把握しています。	○ 家族との信頼関係や地域の方々との交流を深め、顔なじみになりながら色々な情報を得て、その人らしい生活が送れるよう努めていきたいです。
32	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者個々の状態を把握し、個々に合ったケアを行えるようにしていますが、全職員が把握できているかは疑問に思います。	○ 全職員が理解し、いつでも同じケアを行えるように、ケアの統一を図り入居者への理解、視点に立ったケアが行えるように情報交換をします。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は担当制になっており、日頃の状況を全職員が入居者9名把握し、入居者らしい生活が送られるような計画を具体的に立て実行している。家族へは計画を立て同意を得ています。	○ 担当者の視点により計画されています。入居者らしい生活が送られるように、今後も気づきを増やしていくようにします。
34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度見直しを行っています。また、狂態の変化ある時はその都度計画を見直し作成しています。	状態の変化ある時は、医療機関への相談、受診し助言をもらい介護計画に活かしています

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
35	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った記録を具体的に事実のみ記入し、日々の気づき等を申し送り情報の共有を図っています。また介護計画の見直し時に、活かせるようにしています。		事実を記入し振り返り、介護計画の見直し時活かされるようにしています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者・家族の希望に応じていきたいと考えていますが、柔軟な対応ができていないかは疑問です。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
37	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	緊急時には、警察、消防などの協力が得られるような体制になっている。		
38	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の希望に応じ床屋へ外出したり、外出困難な入居者には2ヶ月に一度訪問し散髪行っています。		地元の床屋さんが来てくれます。
39	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	役場・厚生課と連携し行っているが、権利擁護や長期的なケアマネジメントを必要とする入居者が増える可能性があるため、今後一層の協働していく必要があると思います。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
41	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>かかりつけ医が認知症の専門医ではありませんが、相談し助言してもらっています。</p>	
42	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>看護職員は配置されていないが、当グループの看護師長または看護師に相談しています。</p>	
43	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>退居時に連絡箋にて情報提供している。また、入院が短くすぐ退院できるような場合には、速やかに入居できるよう連携し対応できるようにしている。</p>	
44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期に対応できる体制となっていません。</p>	
45	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化や終末期に対応できる体制となっていません。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
46	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
48	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		入居者に聞いてからどうするか決めています。
49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	業務を優先してしまうことがり、少し待って貰うことが度々あるように思い、立ち止まる事をしたいと思います。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
50	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		行事やドライブ時、好きな服を着たりして出かけます。たま、床屋には希望時出かけられますが、2ヶ月に一度訪問もあります。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせた食事を提供し、職員も一緒に食べています。食後の食器洗いや食器拭きなど後片付け行ってくれています。		個々に役割があり、食器洗い、食器拭きを行ってくれています。
52	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者、家族の希望により対応していますが、身体状態や食事制限などもあり、個々に対応しています。		
53	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個々のトイレのサインを見極め、なるべくトイレでの排泄ができるよう支援しています。現在オムツ使用者1名、他パット使用しています。		排泄パターンを把握し、より一層快適な生活を支援していきたいです。
54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるようにし、本人の希望に応じ支援できるように努めています。拒む方に対しては週2回の入浴を勧めゆっくと入浴して頂いています。		季節により菖蒲湯など行ったり、入浴剤を入れ気分を換えるなどの工夫をしています。
55	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の体調、状態にあわせ睡眠状態を観察しています。眠剤や安定剤を使用している方はいないです。		生活リズムを回復できるよう日中の活動を工夫しています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの合った生活を過ごせるように、生活歴や本人の能力に合わせ余暇活動ができるよう支援しています。		裁縫や色塗り、折り紙など近くの公園まで散歩したりしています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により、小遣い程度は個人で管理しています。高額なお金に関しては、施設で管理しいつでも使用できるようにしています。		買い物へ出かけた際は、利用者に支払いして頂けるようにお金を手渡し、お金を使う楽しみができるよう支援しています。
58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者一人ひとりに対応は出来ないのですが、病院受診時や行事・ドライブ等設け、外出出来るようにしています。		利用者個々の希望に添えるように努力していきたいと思います。
59	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	その日の天候や気分、状況にあわせドライブや散歩に出かけます。必要に応じ、家族に協力を求めています。		
60	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ対応しています。		
61	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や友人の面会などあり、利用者の馴染みの人との交流はありますが、気軽に来所できているかは疑問におもいます。		建物がフェンスで囲まれていることもあり、違和感を感じられますが、対応は笑顔で行っており、居心地よく過ごせるようお茶など出しています。
(4)安心と安全を支える支援				
62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員理解しており、身体拘束を行わないケアに取り組んでいます。		行動になる原因を探っていきます。例えば、帰宅願望があり帰ろうとする行動の背景として居場所がなかったり、心配事があったりした。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
64	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		ホールから離れるときは、職員がその場にいる利用者に一言断っています。利用者から知らせてくれることもあります。
65	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
66	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		職員で原因を分析し、対策事項について話し合っ て実行しています。
67	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		職員間での勉強会で再確認のため行っています。
68	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	地域の方々にも施設を知って頂き、訓練をしてい きたいと思っています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
69	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族との話し合いは行えていない。職員間での対応策になっている。	○	起こり得るリスクや対応策にたいし、家族へ報告していき、状況を把握して頂きます。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
70	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々、全職員が観察し、気づきを申し送り、記録に残し情報の共有を図っています。必要に応じ、医療機関に相談、受診しています。		
71	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の内容など、カルテに綴じています。また1日分の内服箱に内服薬の写真を添え飲み忘れ、誤薬防止に努めています。		内服箱に写真入りで内容を記入し、セットします。誰がみても分かるように工夫しています。
72	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事、水分量を把握して日中の活動量の工夫をしています。排便の有無を確認し対応しています。		毎朝、体操を行い活動量を多くできるように工夫している。たま、排便のないときは、医師の指示にて本人に合った量の下剤を服用しています。
73	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケア行っています。自分で行って頂けるよう支援し、洗い残しに対して介助しています。		利用者個々の習慣に合わせ、声がけしています。臥床時には義歯を外し歯茎をやすめるような配慮をしています。
74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立になっています。1日の摂取量、水分量を把握し記録に残しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に関するマニュアルがあり、予防や対応の取り決めがあり、実行しています。		管理衛生チェック表にて担当者ごとに行っています。
76	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	マニュアルがあり、取り決めて実行している。食材はムダにしないように使用している。		管理衛生チェック表にて調理器の衛生管理行っています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
77	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	家庭的な雰囲気作りは行っているものの、建物がフェンスに囲まれており、入りやすいかは疑問に感じます。		入り口に看板がないため、現在業者に依頼し作成しています。
78	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りを工夫し、畳、ソファーなど、個々にくつろげる場所になるように配慮している。音や日射しも適切であると思われ、装飾にて季節感を感じられるよう工夫しています。		
79	○共用空間における居場所づくり 共用空間の中には、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者個々に落ち着く場所があり、思い思いに過ごせるよう工夫しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
80	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時に家族へ説明しているも、協力得られる ことが少なく、馴染みの物は殆ど持参される事 はないです。個々に合った居室になっていま すが、家庭の環境との差はあると思いま す。	○	家族への理解を得られるよう持ち込んで頂き、安 心した生活を送られるよう働きかけていま す。
81	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	換気し、温度・湿度計設置し管理行っています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
82	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	廊下手すりが高く、居室やトイレ入り口が狭い。 また、車椅子用トイレは手すりが遠すぎるなど問 題はあるも、職員が見守り等行い、利用者自身も 上手に移動しています。		利用者の見守りや観察など行い、フォローできる ようにしていきます。
83	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	居室入り口の名札や各居室に分かりやすく札を下 げ、混乱等を防止しています。		
84	○建物の活用 建物を利用者が楽しんだり、活動できる ように活かしている	畑に野菜や花を植え、花を觀賞したり、秋に野菜 を収穫したりします。また、晴天時には、屋外に て昼食を取ったり、涼んだりして過ごしていま す。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
85	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
86	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
87	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
88	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
89	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
90	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
93	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
94	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
95	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
97	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域のイベントや子供会のイベントに参加し、地域の方々との交流をはかっています。家庭的な雰囲気を作れるよう生活の流れは、利用者と共に決めています。例)入浴は出来る限り希望に添えるようにしています。天気の良い日は会話の流れから、散歩やドライブに出かけています。食後の後片付け等を職員と一緒にしています。